

令和6年度 第2回 高岡市地域公共交通活性化推進協議会 議事要旨

日 時：令和7年2月26日(水) 10:00～11:00

場 所：高岡市役所 803 会議室

委 員：20 名中 17 名出席

議事要旨：以下のとおり

【議題】高岡市地域公共交通計画における事業の進捗状況について

資料1に基づき事務局説明

委員からの質問等なし

【報告事項】第1回高岡市地域公共交通活性化推進協議会分科会の開催報告

資料2に基づき事務局説明

委員からの質問等なし

【委員からの意見】

○富山運輸支局 景山首席運輸企画専門官

- ・令和7年度も様々な事業に取り組まれる中、支援できる場所をしっかりとサポートしていくことが国の役割であると感じている。最近フィーターの補助以外にも、共創モデル実証運行事業の補助金や、交通空白地域解消に関する事業の補助金などの新しいメニューもあり、ご活用いただきたい。

○富山運輸支局 廣井首席運輸企画専門官

- ・公共交通機関の運行を維持していくためには運転手に対する支援が大切である。交通事業者を対象とした人材確保のための支援メニューも活用しながら、交通計画を進めていただきたい。

○富山県高岡土木センター 見角次長

- ・道路管理者として、今後とも市と協力していきたい。昨年、能登半島地震の影響を受けた新庄川橋の復旧のため、一時的に通行止めをしていた。現在も通行規制があり、皆様にはご迷惑をおかけしているが、今後ご理解・ご協力賜りたい。

○高岡市連合自治会 藤田副会長

- ・現在、市民協働型地域交通システムを運行している地区以外にも、このような事業にチャレンジしたいと思っている地区があり、引き続き市と協力しながら本格運行に向けお力添えいただきたい。

○社会福祉協議会 会長代理 上見常務理事

- ・社会福祉という観点ではバリアフリーに関する取り組みを進めていただきたい。現在、福岡駅のエレベーター設置工事が進められており、バリアフリー化には費用がかかるが、様々

な利用者の利便性向上につながるため、今後とも取り組んでいただきたい。

○高岡商工会議所 専務理事代理 空事務局長

- ・新幹線の利用促進や城端線・氷見線の再構築を進めていただいているところであり、今年度開始した万葉線のＩＣカード導入など、地域の活性化や地元住民の利便性向上、交流人口の増加に向け、今後とも各事業に協力していきたい。

○高岡市商工会 斉田事務局長

- ・運転免許証の保有状況や、返納に関する意識調査の報告があったが、先日的大雪など、普段自動車や自転車で通勤している方が、公共交通機関で通勤しなければならない場面もある。アンケート結果からも、公共交通に関する当事者意識の高まりは見えてきているので、令和７年度に実施予定のバスの運転手体験等の事業に取り組んでいただくことで、公共交通の重要性を市民が理解し、公共交通に対する意識が高まるよう商工会としても協力していきたい。

○公益社団法人高岡市観光協会 藤田専務理事

- ・北陸 DC に合わせ、新高岡駅の観光交流センターのリニューアルを実施した。待合スペースを確保したことで、日中は常に観光交流センター内に利用者がいる状態であった。観光交流センターでは、バス乗車券の販売も受託しており、今後とも協力してまいりたい。
- ・北陸 DC については、今後効果を評価しながら、新たな事業にも取り組んでまいりたい。

○富山県交通政策局 交通戦略企画課長 代理 朝野副主幹

- ・富山県地域交通戦略における目標として、県民１人あたりの地域交通利用回数は年５０回を掲げているが、高岡市地域公共交通計画ではそれを上回る年５２回を目標の指標に掲げておられ、今後とも公共交通の利用促進に向けて尽力していただきたい。
- ・県では現在、「電車・バスで行こうキャンペーン」期間中の限定切符として、電車・バスに９０分間、乗り継ぎ・乗車自由な切符を販売している。このような事業も含め、今後とも市や交通事業者と連携を図ってまいりたい。

○高岡警察署 小柳地域交通官

- ・地域の方が今後も安心・安全に過ごせるよう、引き続きドライバーに対する安全面の指導に努めてまいりたい。

○西日本旅客鉄道(株)金沢支社 地域共生室交通企画室 川上室長

- ・北陸 DC を盛り上げていただき感謝している。キャンペーンについてはしっかり成果が出たように感じている。
- ・令和７年度は、城端線・氷見線の工事を進めていく段階に入る。２月１日に大阪工事事務所所管の「富山工事所」を新設し、工事の発注、監督、コンサルタントと、工事に関する調整を担う総合組織として弊社のプロジェクト工事を担う専門部署となっている。計画通り工事を進めてまいりたい。

○あいの風とやま鉄道(株) 助野専務取締役

- ・今後とも安全な運行を第一に努めてまいりたい。あいの風とやま鉄道では、富山～高岡間にパターンダイヤを導入し、3月には県東部にも拡大する。
- ・市の支援もいただきながら、福岡駅にエレベーターを導入することができた。令和7年度には越中大門駅のエレベーター導入工事に着手する予定であり、バリアフリー化を進めることで、より多くのお客様にご利用していただきたい。
- ・定期券の利用者はなかなか伸びないが、定期券以外の利用に関しては、県外からの観光客またはインバウンド観光客の増加により大きく伸びている。今後も利便性を高めて、より多くのお客様にご乗車いただきたい。

○万葉線(株) 楠代表取締役専務

- ・昨年9月に万葉線にICカード決済を導入した。現時点では支障もなく運用できており、利用者からは便利になったとの声もある。
- ・JR西日本の訪日外国人観光客向けの「北陸エリアパス」にも昨年3月から参画させていただき、輸送人員はこの約1年間で約16,000人増となっている。
- ・先日の寒波による積雪があったが、土木センターの協力により運行に支障のないよう除雪いただき感謝している。

○加越能バス(株) 取締役自動車部長代理 笹井営業課次長

- ・先日の大雪に関しては、除雪等にご尽力いただき感謝している。遅延等は発生したものの、バスを運行することができた。
- ・昨年10月には一部の路線でルートや運行ダイヤを見直し、市民の方々にはご迷惑をおかけした。その一方、社内で働き方改革を進めたことにより、離職率も低下している。バス運賃のキャッシュレス決済導入については社内で検討中であるが、初期投資も必要であり、ご支援いただきたい。

○富山県タクシー協会高岡ブロック 高岡交通(株) 渡邊代表取締役

- ・新高岡駅の駐車場不足の問題について、新高岡駅周辺の駐車場の増設や新高岡駅～高岡駅間の接続をよくするため、実施していることがあれば教えていただきたい。

⇒鶴谷未来政策部長

新高岡駅の駐車場不足の問題に関しては、立体駐車場の一部を拡張するとともに市有地を民間の駐車場事業者にお貸しすることで約50台分の駐車スペースの増設が可能となった。新高岡駅～高岡駅間の接続については、今後とも加越能バスとも協議し、利用しやすいダイヤや料金設定により利便性を高めていきたい。タクシー協会におかれても、ご協力いただきたい。

○富山県交通運輸産業労働組合協議会 金山議長

- ・県西部の行政のチームワークで城端線・氷見線の再構築事業を進めていただいているところであり、今後も応援していきたい。
- ・現在、タクシーやバスの運転手を目指す人が減少している。大型の二種免許を取得される方は、県内では年間で十数名程度である。現役で働いている運転手の平均年齢は50代を

上回っており、その7割は50歳～60歳以上である。新しく免許を取得する人が減れば、運転手がいなくなってしまう懸念もある。この原因は、2000年頃の規制緩和にある。交通事業者間の競争により、貸切バスやタクシーの運行が増え、利用者にとっては利便性が高まったが、交通事業者とその従事者の負担が大きくなり、担い手の減少に至っている。国では、担い手不足解消に向けた補助メニューを打ち出しているが、県がリーダーシップをとって進めていただきたい。本来、バス、電車、タクシーの事業継続には費用がかかり、運賃は従事者の賃金の源泉であることを忘れないでいただきたい。